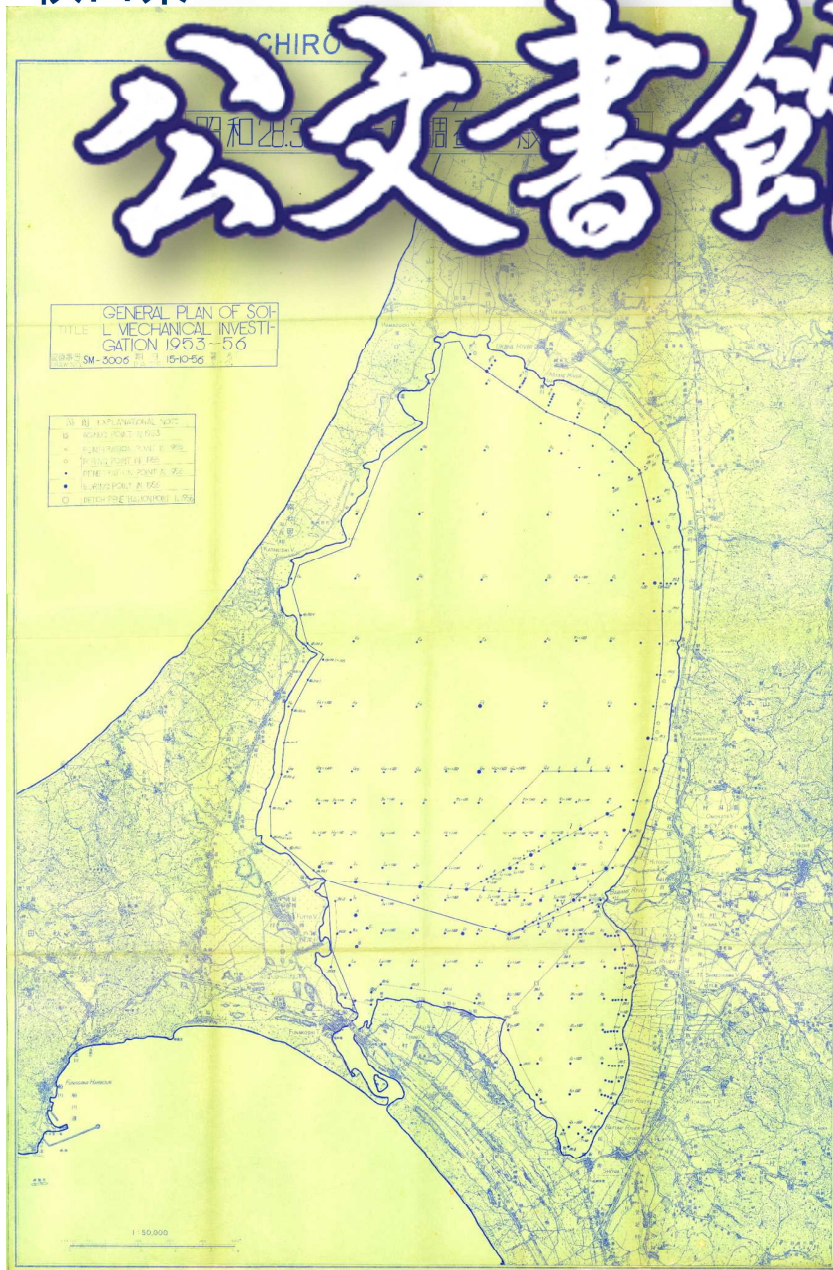


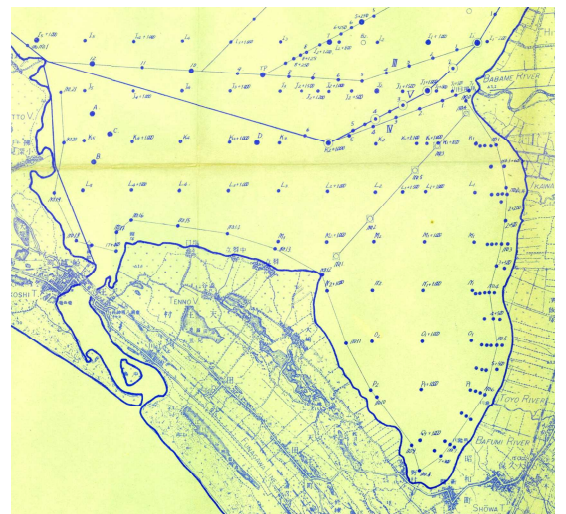
公文書館だより

第50号

令和7年10月2日



凡 例	EXPLANATIONAL NOTE
□	BORING POINT IN 1953
○	PENETRATION POINT IN 1955
○	BORING POINT IN 1955
●	PENETRATION POINT IN 1956
●	BORING POINT IN 1956
○	DETACH PENETRATION POINT IN 1956



〔公文書〕 八郎潟干拓協議（930807-30485）に綴られている〔図面〕 昭和28・30・31年度調査一般平面図 昭和31年（1956）10月15日に作図された図面の写しで、昭和28年から31年にかけて実施された八郎潟湖底の土質調査の順序と位置が記されています。また、八郎潟と秋田湾をつなぐ船越水道は、元々の湾曲した姿が描かれています。

今後の行事予定

◆企画展

●地域連携展

「記録資料にみる大地創造

ー大潟村アーカイブズ・

ギャラリーー

・大潟村干拓博物館

8月1日～12月26日

・本館2階 特別展示室

後期 10月2日～11月3日

◆公文書館講座

●古文書読講座

今年度の講座は修了しました。

多数のご参加ありがとうございました。

●記憶の護り人養成教室

10月9日

11月13日

12月11日

今後の情勢によっては変更の可能性もあります。ご了承ください。

利用案内

◆開館時間

平日 9時～19時

土日祝日 9時～18時

（書庫内資料の利用申請は17時まで）

◆休館日（令和7年度）

毎週水曜日（祝日の場合は木曜日）

年末年始 12月28日～1月3日

特別整理期間

12月4日～9日

休館日についてはウェブサイト、または当館内の掲示等でご確認ください。

三浦畑四郎収集資料の概要と魅力 資料紹介

昨年寄贈された、標題にある史料群について紹介します。史料群は、寄贈者の三浦宏氏の祖父、畑四郎氏が収集された史料を中心に構成されています（全779点）。

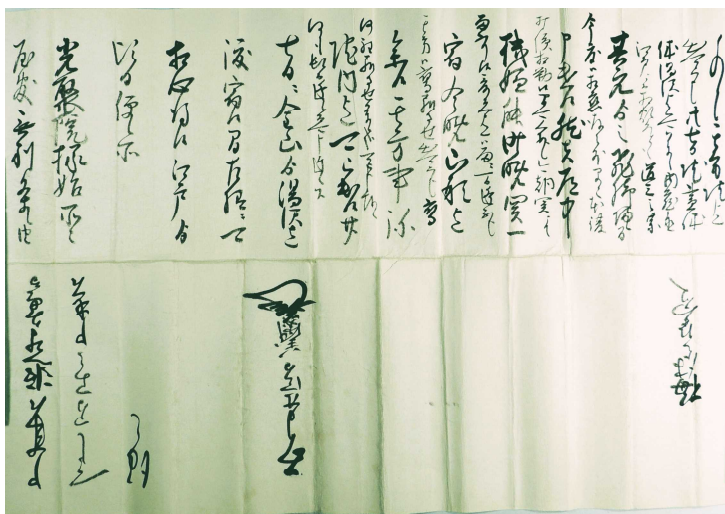
大まかに分類すれば、第一は、藩主の書簡を中心とした藩重臣の史料群、第二は、家臣の書簡類、第三はそれ以外の藩政関係の史料群、第四は、会田素山の書簡などを中心とする俳句関係などのグループに分けられます。ここでは、一から三について簡単に述べてみます。

第一群には、7代義明と11代義睦を除く歴代藩主の書簡、及び梅津憲忠の書簡11通が注目されます。

後者には、昨年12月16日付の「秋田魁新報」で紹介された3通が含まれています。大坂冬の陣の戦場から弟の梅津政景に宛てたもので今福の戦いの様子が書かれています。

藩主の書簡はほとんどは右筆の手によるもので、また政治的に重要な内容のものではないのですが、これだけそろっていると壮観です。

写真Aは3代義処のものです（三浦2-14-2）。参勤を終えて帰国の途中、山形から家老に宛てて出したものですが、追伸部分に鷹の様子を尋ねているところがあり、当時の大名がいかに鷹を大切にしていたかがうかがわれ、興味深いものがあります。



A 「佐竹義処書状」

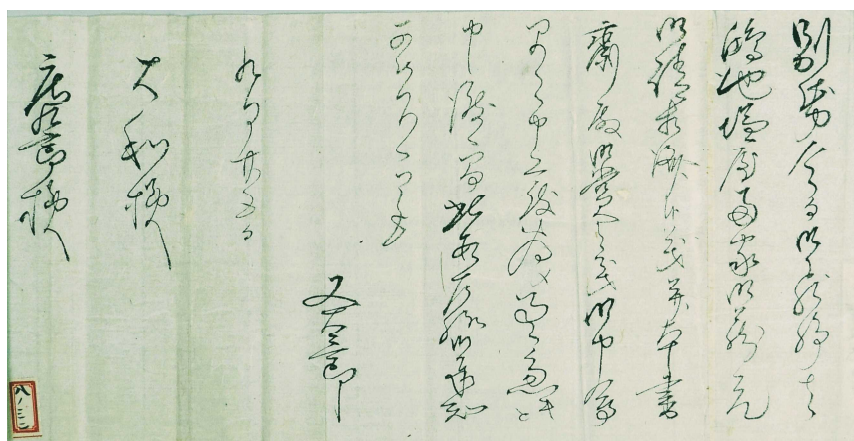
なお、写しの可能性があります。佐竹義重の書簡も一通含まれています。

第二群は、家老から家臣まで、さまざまな人物の書簡が含まれています。点数でいえば、この文書群が最も多い。時代は、18世紀後半から幕末にかけてのものがほとんどです。

家老では、定田斎（定綱）（22通）、宇都宮帯刀（孟綱）（10通）、小野岡大和（義音）（5通）、小鷹狩右近（政尹）（11通）、石塚源一郎（義貞）（11通）などが目をひきます。時候の挨拶のようなものもありますが、藩政史上、注目すべきものもあります。

たとえば、文化八年前後のものと思われる足田斎の書簡（三浦3-4-2）は、諸上納銀受取役所の設置と預札の発行について、「この政策は、自分たちと勘定方が極秘裏に進めたもの」とあり、その背景について語る貴重な史料です。

また、文化9年（1812）のものと思われる岡本又太郎（元長）の書簡（三浦3-3-6）は、鴻池（山中家）と塩屋（梶川家）が大坂の蔵元に就任することが決まったことについて述べています（写真B）。



B 「岡本又太郎書状」

宛名は、小野岡大和（義音）と小野崎庄九郎（通恒）で、いずれも当時の家老です。

なお、両家の蔵元就任については、「介川東馬日記」に詳しい記事があります。

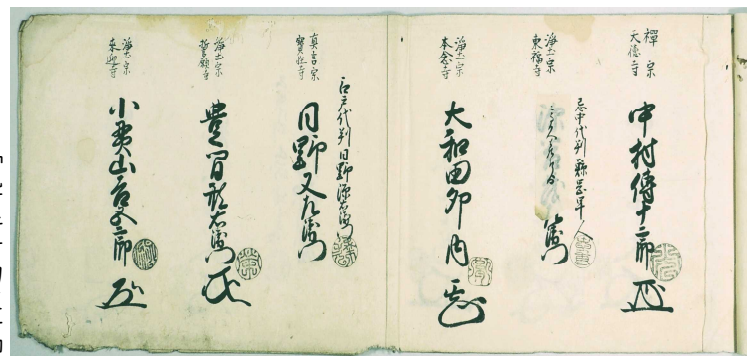
家老以外のものとしては、勘定奉行で大坂留守居役を長く務めた介川東馬（通景）、側役から御用人を務めた田代新右衛門（綱紀）、箱館留守居や京都留主居を務めた長瀬隼之助（直温）、角間川の給人で儒学者としても著名な落合文六（直養、号東堤）などの書簡類が多数、そのほか、瀬谷小太郎・関口半八・介川作美など、多くの家臣の書簡が集められています。

介川東馬の書簡には、大坂の鴻池（山中家）からの借銀返済にかかわる内容のものや（三浦3―5―7）、殖産政策を牽引した金易右衛門に宛てた書簡（三浦3―8）など、近世後期の藩政を考察するうえで、重要な論点を示してくれそうなものもあります。

第三群は、仮目録作成の上で便宜上グループ分けしたもので、一と二に含められない雑多な文書や歴史資料で構成されています。とはいえ、それぞれの歴史的価値は少なくありません。

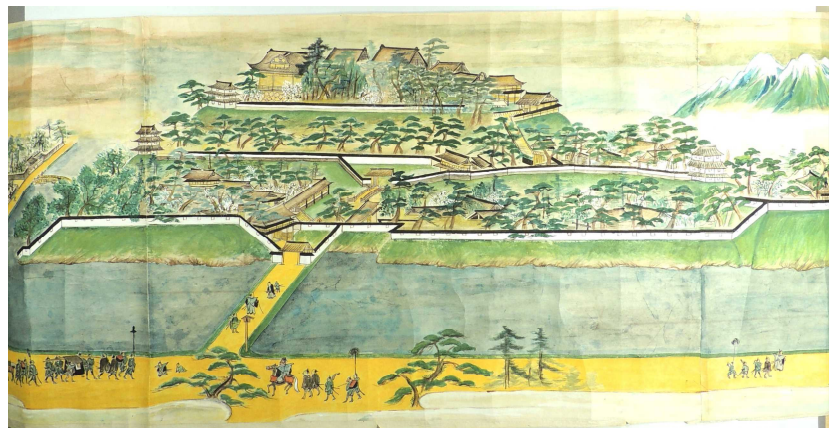
たとえば、「亀町新町切支丹御調帳」（三浦7―15―10）も貴重です（写真C、享和元年へ一八〇一）の

もの。上に旦那寺が記され、その下に当主の名が記され、花押がすえられています。秋田藩では切支丹人別帳自体残っているものが少ないのですが、これは、武家のものとして貴重です。



C 「亀町新町切支丹御調帳」

「秋田城之図」（写真D、三浦7―16―16）は、明治初期の作品と思われませんが、中土橋をのぞむ側から城



D 「秋田城之図」

を俯瞰して描いたものです（部分）。全体は、西は穴門から東は三の丸あたりまで描かれ、遠くには太平山が描かれています。渋江・梅津の屋敷から、城の全容、各櫓や門の位置までがわかります。

掲載した図には見えませんが、左

端に「中村素堂図」（落款なし）とあり、裏面に「此ノ図ハ真影ニ相違セリト評セル人アルモ決シテ間違ナシト小野岡義礼ノ証明スル物ナリ」と墨書があります。

ところで、秋田県立博物館には、「久保田城図」の資料名で、これと全く同じ絵があります。それには、「明一八乙酉春」「晶一図（落款）」とあります。画風もしっかりしており、渡辺昌一の作で、絵画としては格段にすぐれた作品です。三浦家資料のものは、その模写であると推測されます。

以上、簡単に「三浦畑四郎収集資料」について紹介しました。ただし、現在の目録は、寄贈した下さった方にお渡しするために急いで作成した仮目録に基づいています。したがって、四つのグループに分けているとはいえないものの、細密な内容分類を行ったものではありません。

正式な目録は、いずれ作成されることと思いますが、現時点では、この仮目録で閲覧が可能です。紙面の都合で、言葉足らずの説明になってしまいました。ぜひ、閲覧室で実史料をご覧ください。【金森正也】

ある熨斗包紙上書きに関して

熨斗包紙上書き

令和六年度に当館に寄贈された三浦畑四郎氏収集資料の中に二点の「熨斗（現物）」が含まれています。写真はこれらのうちの一点（三浦七一―二）ですが、その包紙には以下のような記載があります。

天保六年未六月廿二日御学館御講釈之節、
屋形様義厚公被為人、御手熨斗
拝領仕候

「天保六年（一八三五）六月二十二日、学館で講釈のとき、十代藩主佐竹義厚から直接熨斗を拝領した」と読み取れる内容ですが、それではこの熨斗を拝領したのは誰かということが問題になります。

「御亀鑑」や「北家日記」等には、

様々な「儀式」等で熨斗の授受が行われていることが記載されています。

学館の建物ができたのは寛政二年（一七九〇）二月十二日ですが（「御亀鑑」秋府七）、祭酒・文学・助教以下スタッフがそろって出勤するのは寛政五年八月朔日から（秋府一〇）、八月十九日には学館に関する条目・

執達が伝えられたあと別紙書付により「祭酒・文学・助教之御講日は追而被相定可被仰渡候」とされました。

寛政六年正月十一日「陰之間 御出座（中略）中山文右衛門罷出、御講釈初有之候、御のし御膳番献之、右御のし 御自身文右衛門江被下、同十七日には「御学館江被為人（中略）文右衛門江 御手熨斗鮑被下之、

同人頂戴」と、初代祭酒中山文右衛門盛履が、本丸御殿陰の間と学館における講釈の際の「御手熨斗」拝領の記事が見え始めます（秋府一一）。

寛政七年十月十二日には「助教那珂長左衛門初而講釈申上候二付、御学館江被為人、次第、祭酒・文学・御講釈之通」とあり（秋府一二）、学館における祭酒・文学・助教の講日に藩主が出席する場合の式次第は、ほぼ同様と考えていいのではないのでしょうか。

「御亀鑑」はその性格上、佐竹義和が亡くなった文化十二年（一八一五）までで記録は終わりますが、以後の事例を考える際の参考になると思います。

さて、一段目で触れた熨斗の拝領者ですが、これは高橋小平政民であろうと考えます。高橋小平は、本年度も刊行継続中の『野上陳令日記』のほか、「御亀鑑」・「北家日記」・「義厚公譜」にも登場します。現在私が確認できている範囲では、寛政十二年二月五日に学館教授並に任命され（秋府一七、このときは高橋三之助）、文政二年（一八一九）十一月二十九日に詰役支配見習から詰役支配に昇格します（「義厚公譜」乙、高橋三之

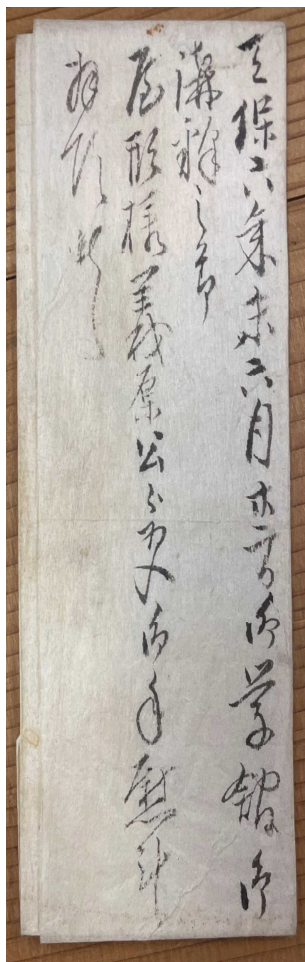
助政民）。「高橋小平」の名前が登場する早い例は文政五年二月八日です（「北家日記」六二九）、以後文政十一年四月二十二日に詰役支配から助教に昇格（「義厚公譜」戊）、弘化二年（一八四五）二月二十九日病気で辞任（「義厚公譜」癸）するまで、十八年間学館助教を務めた人物です。

史料に記載されている天保六年六月二十二日、「義厚公譜」辛の同日条には「助教高橋小平政民講日二因テ駕ヲ学館ニ枉ゲラル」とあり、当日学館において屋形様から「御手熨斗拝領」（直接熨斗をいただいた）というのであれば、この史料（熨斗）の拝領者は高橋小平政民と考えても無理はないだろうと思います。

史料に直接書かれていない「情報」を推測するために、他の様々な史料を読み込むという作業は、かなりの時間を要するものではありませんが、ある程度方向が見えてくると、元氣が出てくるものだと考えています。

なお、「義厚公譜」丁の文政七年三月二十日条には「高橋小平政民（詰役支配）、先公嘗テ命ジテ別号録ヲ編輯セシム、今完成ノ勞ヲ賞シテ扇紋ノ時服及銀子ヲ賜フ」という興味深い記事もあります。

【伊藤勝美】



令和7年度市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議

令和7年11月21日(金)、令和7年度市町村公文書管理・歴史資料保存利用推進会議の開催を予定しています。

当該会議は、県内の市町村で公文書や歴史資料(古文書等)を管理する職員を対象に、自治体の記録である公文書や地域の歴史的記録である古文書を地域住民共有の知的財産として適切に保存し利用することを目的とし、原則、毎年度開催しています。

今年度は、埼玉県立文書館学芸主



昨年度の会議風景



昨年度の会議風景

幹・新井浩文氏による基調講演「文書館のしごとー地域おこしと記録史料によせてー(仮題)」や、大潟村千拓博物館主任・高橋真也氏による事例報告「世紀の大事業大潟村千拓を未来に伝えるには(仮題)」のほか、「地域おこしと記録史料(アーカイブズ)」をテーマにしてパネルディスカッションを行う予定です。記録史料(アーカイブズ)を活用した「地域おこし」の可能性について幅広く意見交換や情報交換をする機会にしたいと考えています。

【鈴木久】

令和7年度 県政映画上映会実施報告

公文書館では、平成21年から大型スクリーンで視聴する上映会を開催しています。今年度は8月28日(木)、29日(金)に県政映画上映会を実施しました。

今年度は「秋田の伝統文化」をテーマとし、昭和30年代から40年代の祭や伝統芸能を中心に映像を集めました。秋田市の「竿燈」や横手市の「かまくら」など全国的に知られているものの他にも、地元で伝わる芸能や行事の映像も残っており、県内の人でも「知らなかった」という行事がいくつか見られたと思います。

上映後に回答頂いたアンケートで



白岩焼きにいどむ(角館町)



駒踊り(藤里町)

は、概ね好評なご意見を頂けました。興味を持たれた映像という項目では、明治に一度途絶えた陶器の再興に取り組む様子を映した「白岩焼きにいどむ」や藤里町で行われている「駒踊り」などが挙げられました。今回頂きましたご意見を参考に、来年度以降の上映会を実施していきたいと思っています。

県政映画については、閲覧が可能です。閲覧室内にある目録の中から選び、申請書を作成してカウンターへ提出してください。興味がありましたら是非ご利用ください。

【中田暁】

公文書館・図書館連携展示

令和7年5月29日（木）から7月1日（火）まで「平沢常富とその時代」展を開催しました。

平沢常富は、今年のNHK大河ドラマ「べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺」^{げざばん}に戯作本の作者である朋誠堂喜三三^{ほうせいどうきさんじ}（狂歌師としての号は手柄岡持^{てがらのおかもち}）として登場していますが、実は秋田藩江戸留守居役を務める秋田藩士です。ドラマの中ではいつも吉原で遊んでいるイメージがありますが、今回の展示では、図書館・公文書館・博物館所蔵の県指定文化財の資料はもちろん、公文書館所蔵資料を元に平沢常富の秋田藩士としての活躍を明らかにして、その人物に視点を当



てた構成としました。

まず、平沢常富については、平沢の生涯と秋田藩江戸留守居役としての働きに焦点をあて、『御亀鑑』『義和公譜（家譜）』をもとに紹介しました。

次に、秋田藩・旗本生駒氏・亀田藩の境目争論については、「八卦通（現大仙市西仙北）」の入会地を巡る国境争論が幕府提訴となったことで、平沢がその折衝にあたった様子を紹介しました。

そして、「手柄岡持自筆作品並びに関係資料」については、秋田県指定有形文化財に指定されている「手柄岡持自筆作品並びに関係資料」22点の内、19点を一同に列品し紹介しました。

さらに、平沢常富や薦屋重三郎が生きた時代の江戸の街の様子について『分間江戸大絵図』をもとに紹介しました。

最後に、NHK大河ドラマ「べらぼう」に登場した、黄表紙の作品や吉原細見などを紹介しました。

結果としては、途中一週間ほどの特別整理期間をはさみましたが、24日間で九、一五人もの多くの方々にご覧いただきました。

【伊藤成孝】

連携展（後期展）
「記録資料にみる大地創造」

大潟村教育委員会との連携展「記録資料にみる大地創造」は、10月2日（木）から、村政開始と防潮水門を扱う後期展に入りました。展示構成は次のとおりです。

- ・ 前期展ダイジェスト・干拓計画
- ・ 干拓工事
- ・ 村をつくる
- ・ 現在の大潟村

11月3日(月)までの会期で、公文書、図面、航空写真から、大湊村が自治体として誕生した経緯、防潮水門の構造などを紹介します。



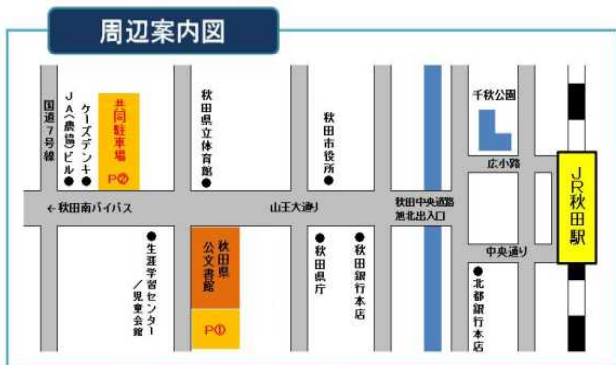
展示付帯事業「秋田県公文書館アーカイブズ・デイズ」
大潟村南部排水機場の排水ポンプを見学
令和7年9月16日(火)

編集後記

令和7年8月18日（月）から22日（金）まで国立公文書館主催の「アーカイブズ研修Ⅰ」をオンラインで受講しました。グループ討論では、「公文書の評価選別」をテーマとし、それぞれが所属している機関の状況や課題などについて紹介し、情報・意見交換を行いました。

他の都道府県・市町村の方々とオンラインではありましたが交流することができ、有意義な研修でありました。引き続き自己のスキル等を高め、皆様の役に立つよう一層努力したいと思います。

【鈴木木久】



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsoyo/>